

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 狩猟	(ふりがな) しゅりょう	
地域独特の呼び方			
タイトル	カモシカ猟		
伝承地域	西会津町 新潟県鹿瀬町 (猟場)		
由 来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか)		
内 容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>カモシカの巻狩りをアオシシヤマともいう。猟期は11月頃から始まる。カモシカは春になると毛が抜けるので寒中の猟がもっともよい。</p> <p>巻狩りの人数は5人から10人ほどである。主な猟場は新潟県鹿瀬町実川である。</p> <p>カモシカは大食で朝早く目をさまし、エサを探し歩く習性がある。雪が多い時はカモシカの姿が遠くから見えて獲りやすい。足跡を見て、その通る道を定める。カモシカは尾根につきやすくセコが下から追い上げ、ブッパの所まで追い詰める。追いこんでくる距離は熊に比べると短い。カモシカは目が早いためブッパは決して姿を見せてはいけない。</p> <p>カモシカの毛に雪がダンゴ状につき身動きができなくところを捕獲するのでカモシカの巻狩りは大雪の降った方がよい。猟師はツルカンジキをはいて深雪の中をダシといって風の強いところから風のない尾根の方へカモシカを追いこむ。追い込まれるうちカモシカの毛に雪がダンゴ状につき歩けなくなってしまう。これをダシゴローといい、そこを撃って捕らえる。</p> <p>カモシカでもっとも高価なものは毛皮で購入者はあらかじめ決まっていた。また自家用として手袋やトマリヤマの猟に着的ミノやヒツツキと呼ぶ腰当てを作っていた。カモシカは寒くなると油が出て太り、春になると痩せてくる。寒中の肉はおいしく自家用に食べた。葬式やお産のあった家の人は一週間位は巻狩りに参加できなかった。</p>		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	参考資料『西会津町史 6巻民俗』(平成3年)		電話

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）			※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。
	性別・年齢	男 ・ 女	歳		
	生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月 日 生	
	住所・電話	電話			
	職 業				
団体	団体名（ふりがな）			
	代表者氏名（ふりがな）			
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	不明	年 月 日	
	問い合わせ先				

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

カモシカ

古来、狩猟の対象となっていたが、1925年(大正14年)当時の狩猟法改正により狩猟獣から除外された。

また、1934年(昭和9年)に、現在の「文化財保護法」の前身である「史跡名勝天然記念物保存法」により天然記念物に種指定され、その後、1955年(昭和30年)に、「文化財保護法」に基づき天然記念物に指定された。

カモシカは、90年以上にわたって法律により狩猟が原則禁止されている。



活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。